

平成 28 年度 自己点検・評価報告書

平成 28 年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

京都大学動物実験委員会

平成 29 年 8 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 □ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）
3) 評価結果の判断理由 機関内規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 全学動物実験委員会名簿 ・ 部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由 全学動物実験委員会及び部局動物実験委員会が適正に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由 全学動物実験規程及び部局動物実験規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 □ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 組換えDNA実験安全管理規程 ・ 組換えDNA実験安全管理規程施行規則
3) 評価結果の判断理由 全学動物実験規程、部局動物実験規程、組換えDNA実験安全管理規程、及び組換えDNA実験安全管理規程施行規則が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由 全部局において規程、マニュアル等が整備されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

該当せず。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（平成28年7月20日） ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（平成29年3月29日）
3) 評価結果の判断理由 「京都大学における動物実験の実施に関する規程」に基づき、適正な活動を実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験計画承認報告書 ・動物実験結果報告書 ・自己点検報告書（動物実験実施状況）
3) 評価結果の判断理由 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験計画承認報告書 ・動物実験結果報告書 ・自己点検報告書（動物実験実施状況）
3) 評価結果の判断理由 医学研究科、農学研究科、ウイルス・再生医科学研究所、野生動物研究センターで、実験動物逃亡防止装置につまずく等による転倒 2 件、施設設備への衝突 1 件、実験動物による咬傷 3 件、針刺し 1 件、炭酸ガスの漏洩 1 件の計 8 件の事故が報告されているため。
4) 改善の方針、達成予定時期 各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底させる。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） ・自己点検報告書（実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由 飼養保管は適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・飼養保管施設設置承認報告書 ・実験室設置承認報告書 ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） ・自己点検報告書（実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由 機関内の飼養保管施設は、適正に維持管理が実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学における動物実験教育訓練実施状況（平成28年度） （参加人数 延べ <u>1, 594</u> 人、実施回数 <u>34</u> 回※） 別紙1のとおり ※平成28年4月1日よりEラーニングによる実施を開始したため、講習会を開催した回数のみ集計
3) 評価結果の判断理由 実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験に関する自己点検・評価報告書 ・京都大学動物実験委員会ホームページ
3) 評価結果の判断理由 自己点検・評価、情報公開は適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 京都大学における動物実験委員会の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授13名、准教授5名
- ・第6条第2号に掲げる委員：教授1名
- ・役割ごとの委員の所属部局：別紙2のとおり

2) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授 50名、准教授 48名、講師 12名、助教 18名

その他 6名（オブザーバー2名、事務職員 3名、学外 2名）

3) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について

別紙3のとおり

4) 動物種ごとの飼養数の集計について

別紙4のとおり

動物実験教育訓練実施状況(平成28年度)

部局名	教育訓練 実施回数	参加人数 (延べ)	実施日
文学研究科	/	19	e-Learningによる受講
理学研究科	/	58	e-Learningによる受講
医学研究科	/	549	e-Learningによる受講
薬学研究科	/	129	e-Learningによる受講
工学研究科	/	35	e-Learningによる受講
農学研究科	/	227	e-Learningによる受講
人間・環境学研究科	/	20	e-Learningによる受講
情報学研究科	/	31	e-Learningによる受講
生命科学研究科	1	105	4月8日、e-Learningによる受講
化学研究所	1	4	5月8日
ウイルス・再生医科学研究所	/	115	e-Learningによる受講
原子炉実験所	/	14	e-Learningによる受講
霊長類研究所	30	121	4月11、12日(2日) 5月31日 6月13、16、17、20、22、28、29日(7日) 7月5、19、21、25、28日(5日) 8月23、24日(2日) 9月12、13日(2日) 10月6日 11月1、4、17、22日(4日) 1月5、10、16日(3日) 2月6、15日(2日) 3月2日
物質－細胞統合システム拠点	/	13	
iPS細胞研究所	/	10	e-Learningによる受講
野生動物研究センター	/	0	
環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合センター	2	141	4月4、5日(2日)
放射線生物研究センター	/	3	e-Learningによる受講
合計	34	1594	

実施内容:

- ①関連法規、指針、本学の規程等の説明
- ②動物実験等の方法に関する基本事項
- ③実験動物の飼養・保管に関する事項および安全管理に関する事項
- ④申請書の書き方等の説明

京都大学動物実験委員会の構成

平成28年4月1日現在

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	教 授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	教 授	③	法社会学
3	1号	理学研究科	准教授	①	動物行動学、爬虫類学、自然史学
4	1号	医学研究科	教 授	②	実験動物学, 発生工学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	神経薬理学
6	1号	工学研究科	教 授	①	環境医学
7	1号	農学研究科	教 授	①	応用生物科学、食品機能学
8	1号	人間・環境学研究科	准教授	①	行動制御学
9	1号	情報学研究科	教 授	①	生物圏情報学・畜産学
10	1号	生命科学研究科	准教授	①	高次生命科学
11	1号	化学研究所	教 授	①	環境物質化学
12	1号	再生医科学研究所	教 授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	ウイルス研究所	准教授	①	発生生物学
14	1号	原子炉実験所	教 授	①	放射線腫瘍学、腫瘍治療学
15	1号	霊長類研究所	教 授	②	実験動物学・分子寄生虫学
16	1号	iPS細胞研究所	教 授	①	実験病理学
17	1号	野生動物研究センター	教 授	①	比較認知科学
18	1号	環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合センター	教 授	①	細胞生物学・生物学・放射線安全管理学
19	1号	放射線生物研究センター	准教授	①	分子生物学、放射線生物学

※役割とは、文部科学省の指針に示された以下のことを示す

- ①動物実験等に関して優れた識見を有する者
- ②実験動物に関して優れた識見を有する者
- ③その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（平成28年度）

部局名	動物実験計画書の審査のまとめ			動物実験 従事者数及び 飼養者数	飼養保管施設 の設置状況	飼養保管施設 から独立した 実験室
	許可件数	改訂後許可 件数	不許可・ 取下げ件数			
文学研究科	46	0	0	47	2	2
理学研究科	22	0	0	119	15	15
医学研究科	426	144	2	2,556	12	77
薬学研究科	52	23	0	240	6	20
工学研究科	18	0	0	174	4	2
農学研究科	101	64	0	1,304	15	31
人間・環境学 研究科	5	0	0	6	2	3
情報学研究科	10	0	0	66	2	1
生命科学研究科	15	0	0	148	4	9
化学研究所	1	0	0	6	1	1
ウイルス・ 再生医科学研究所	180	46	1	505	20	41
原子炉実験所	28	0	0	70	3	5
霊長類研究所	159	74	4	867	28	26
物質-細胞統合 システム拠点	14	2	0	75	3	10
iPS細胞研究所	54	32	0	336	1	17
野生動物研究 センター	14	0	0	152	1	0
環境安全保健機構 附属放射性同位元素 総合センター	25	0	0	54	1	3
放射線生物研究 センター	3	3	0	43	1	3
合 計	1,173	388	7	6,768	121	266

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、再生医科学研究所附属再生実験動物施設、ウイルス研究所本館動物飼養保管施設、霊長類研究所人類進化モデル研究センター、iPS細胞研究所附属動物実験施設

動物種ごとの飼養数(平成28年度)

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境学	情報学	生命科学	化学研究科	ウイルス・再生医科学	原子炉実験所	霊長類研究所	物質・細胞統合システム拠点	iPS細胞研究所	野生動物研究センター	放射性同位元素総合センター	放射線生物学研究センター	合計
マウス	0	164	52,295	6,905	1,847	1,385	250	32	670	2	14,306	28	50	4,542	2,640	0	34	0	85,150
ハムスター	8	75	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130
モルモット	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	25
ラット	0	1	6,847	60	315	996	462	0	1	1	188	3	32	0	220	0	1	0	9,127
デグー	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
ウサギ	0	0	98	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	134
イヌ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	178	0	0	0	0	0	0	0	181
ブタ	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6
ヤギ	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ヒツジ	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
ウシ	0	0	0	0	0	134	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	134
サル類 (類人猿除く)	24	0	34	0	0	0	3	0	0	0	40	0	1,199	0	10	0	0	0	1,310
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	64	0	0	80
鳥類	33	21	100	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155
爬虫類	1	172	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173
	89	433	59,444	6,965	2,162	2,528	715	32	671	3	14,758	31	1,297	4,542	2,871	64	35	0	96,640

(例) 100頭を200日飼養した場合 100頭×200日=20,000頭 飼養数=20,000頭/365日=54頭(頭未満切り捨て、1未満は1とする)